

平成 23 年度インターンシップ実施報告 — 一貫したキャリア教育を目指して —

The Internship Program in 2011
For Career Education

石田隆弘*1, 前川昭二*2, 小澤哲夫*3, 桐原正之*4

幸谷智紀*5, 榛葉豊*5, 青島偉夫*6, 大石和典*6

Takahiro ISHIDA, Shoji MAEKAWA, Tetsuo OZAWA, Masayuki KIRIHARA,
Tomoyuki KOYA, Yutaka SHINBA, Hideo AOSHIMA, Kazunori OHISHI

Abstract: Ours Internship has been introduced into the curricula of Shizuoka Institute of Science and Technology (SIST) since 1999. This report presents the discussion about the preparation, the organization and the results of the internship program conducted in 2011. Ours program has been started from 1999. In 2011, 60 companies in Shizuoka prefecture proposed this program by providing their own internship programs for 107 students. 60 students participated in the programs. The results of this program over ten years are summarized and its future prospects are presented.

1. はじめに

本学のインターンシップは、平成 11 年度に試行を行い、平成 12 年度から授業の一貫として単位を付与して実施している。本制度も開始から 10 年を経過し、企業との相互理解も深まってきている。このように、本授業は人材育成の手段として、確実に定着しつつあると言えよう。また、本学のキャリア教育の中で重要な地位を占める事業となってきた。

本報告は、平成 23 年度夏期に静岡理科大学において行われたインターンシップに関して、事業計画、受入企業に対する依頼、参加学生の募集、実習内容、参加学生の成績評価、実習結果の総括など、各段階における経過および結果をまとめ、本事業によって得られた成果や問題点を明らかにし、来年度以降の実施に向けた改善に資することを目的としている。

特に、学生および受入企業からの報告書を詳細に分析し、学生がインターンシップにおいてどのような内容の実習を行い、成果として何をえたか、また、企業による学生および実習内容の評価などを検討している。さらに平成 11 年度から平成 23 年度までの 13 年間のインターンシップ実施結果の総括的なまとめ、および来年度以降のインターンシップに関する展望についても述べる。

2. 平成 23 年度インターンシップの計画

昨年度の反省点として、以下の点が挙げられた。

- ①低迷した経済状態が今年度も続き、昨年度よりも厳しい経済環境が静岡県西部地区を中心に広がったことにより受け入れ企業の数が減少し、平成 22 年度は 60 社まで減少した。
- ②厳しい雇用環境を感じ取った学生が就職活動を有利にするため、インターンシップの必要性を認知し、申込が昨年よりも多くなった。
- ③そのため受け入れ企業数よりも参加希望学生数が上回り、参加意欲の高い学生のみを選別せざるを得なかった。
- ④このことにより、希望する企業でインターンシップを行

えない学生が出る事態が生じた。これはインターンシップの主旨から外れることになり、改善を早急に行う必要がある。

平成 23 年度インターンシップは、これらの問題点を改善するため、以下の事業を取り入れた。

- ①新規インターンシップ受け入れ企業開拓に取り組んだ。
- ②企業側への受入希望調査を昨年度同様 4 月に開始した。
- ③企業からの全ての提出物を昨年同様 Web 上で入力可能とし、インターンシップ受け入れ申込み、実習報告および評価作業などの効率化を図り、企業側への負担を軽減した。

- ④学生からの書類提出や手続きを主にキャリア支援課で取り扱い、同時に挨拶や言葉遣いの指導も行った。

上記施策により、事務的作業の効率化と簡便化を図りながら、学生の積極性の向上と意欲の喚起を図り、より高い教育効果が得られるインターンシップの実施を目指した。

3. 受入企業への協力依頼

地域社会との密接な連携を特色とする本学の教育の中にあつて、インターンシップ制度は地域産業との連携による、地域に役立つ人材の育成、地域の企業や地域社会との交流の推進などの観点から重要な役割を負っている。それ故、協力依頼企業の選定にあたっては、過去 12 年間の受入依頼の発送状況や、これまでの就職状況などを十分に考慮した。選考の末、4 月 26 日に大学周辺の企業を中心に 579 社に対してインターンシップ事業の協力依頼を実施した。また、一部学科では、卒業生を中心に勤務先でのインターンシップ受け入れの可能性を問い合わせ、新たな受け入れ先の開拓も行った。

その結果、平成 23 年度は、60 社から 107 名分の実習テーマについて受入の申し込みがあった。現在も続いている景気低迷や円高の影響、また本年 3 月に発生した東日本大震災等の影響が多方面に出ているにもかかわらず、受け入れ企業数、実習テーマ数に関してはここ数年とほぼ同数となった。これは本学のインターンシップ制度への地元企業の理解が広まってきた事によるものと考えている。

4. 参加学生募集と派遣企業の決定

4 月の履修ガイダンスなどを利用して、全学学生に対して事前研修およびインターンシップ実習への参加要請を行った。また、報告書の提出と報告会および事後研修に全て参加しなくては単位の取得ができないことを告知した。その上で、インターンシップ参加希望者には 4 月 27 日に

2012 年 3 月 14 日受理

*1 インターンシップ WG リーダー, *2 機械工学科, *3

電気電子工学科, *4 物質生命科学科, *5 総合情報学部,

*6 キャリア支援課

行った第1回の事前研修をはじめとして、全3回の事前研修を実施した。参加希望学生と派遣企業の決定に当たっては、受入企業側から提示された「実習テーマ」をもとに、学生が実習内容をよく検討した上で希望企業を選定し、第5希望まで受付を行った。希望学生が実習定員を上回った企業については、学生の意欲や専門分野と実習内容の関連等を考慮して選考を行った。また、学生の通勤可能性についても検討し、通勤が危うそうな学生については個別に確

認を行い、派遣学生を決定した。このように、極力学生の希望が優先されるよう配慮し、40社に60名の実習生を派遣することとなった。

実習生を派遣した企業ごとの実習期間、派遣実習生の人数などの一覧を表1に示した。また、表2および表3には、学年別および学科別の実習生数の内訳および受入企業の地域別内訳を示した。

表1 実習先受入企業一覧表(受入回答企業60社募集人数106名、実習実施企業40社、実習学生60名)

No.	会社名	実習地	テーマ	期間	日数	受入人数	実習人数
1	ダイハツ沼津販売㈱	沼津市	ダイハツ沼津が取り組む店舗総合営業活動の実習。お出迎え～お見送りまで	9/3-9/14	10	4	1
2	㈱島山製作所	沼津市	3Dモデルの作成(トレース)	8/22-9/21	10	1	0
3	㈱三鮮商事	御殿場市	介護	-	-	1	0
4	㈱木村铸造所	清水町	CAD/CAMを用いた铸造用模型の製作	8/30-9/10	10	2	0
5	㈱コーヨー化成	富士市	製品がお客様の手に渡るまで、どのような工程を踏むかを体系的に理解する。	8/8-8/26	10	2	1
6	㈱小林製作所	富上市	製紙機械、産業機械について	8/8-8/12	5	2	0
7	生活協同組合コープしずおか	静岡市	就業体験内容:自己分析、キャリア開発の考え方、店舗・宅配での実務作業、組合員活動、まとめ	9/12-9/16	5	2	2
8	アイティ・インターナショナル㈱	静岡市	Web制作、映像制作、及び企画を製作用PCなどを使い実習から学ぶ。	9/15-9/22	5	2	2
9	先生精機㈱	静岡市	製作機械が出来上がるまでの各工程を学ぶ	9/5-9/16	10	2	0
10	松本印刷㈱	吉田町	職業体験	8/22-8/26	5	1	1
11	㈱ふじかわコーポレーション	富士市	新入社員研修を行い、社会人としての心構えを習得する。製造業として、ものづくりを通じて、社会に貢献することを体感する。	8/17-8/23	6	2	2
12	遠藤科学㈱	静岡市	科学機器商社の主要な業務内容全般と客先訪問を体験する。	9/5-9/9	5	1	1
13	三明機工㈱	静岡市	3D CADによる機械設計。製造(溶接、機械加工、組立)。ロボットティーチング(制御)	9/5-9/9	5	3	3
14	静岡市役所清水港振興課	静岡市	静岡市シティープロモーションである「清水港マクロまつり2011」の開催に伴うイベント当日の補助、事前準備等事務局補助	8/10-10/9	8	1	1
15	㈱大井産業機械	島田市	設計をし、先輩方の手伝いをする。加工、組立工場で製造過程を見て、設計と加工・組立・制御設計とのつながりを学ぶ。	9/5-9/16	10	2	2
16	㈱ワイケーデザインリンク	島田市	CAD(Solid Works)操作トレーニングと自動車用メータ・室内ランプ等、構造の勉強	9/5-9/16	10	1	0
17	富士ゼロックス静岡㈱	浜松市	PCを操作してデジタル・プリプレスの体験、大型高速コピー機での印刷業務体験、製本作業体験など。	9/5-9/16	10	2	2
18	㈱アーティス	浜松市	ウェブサイト制作に関する業務を理解する	9/5-9/16	10	1	1
19	ショーダテクトロン㈱	浜松市	設計図を基に機械部品や制御機器を組み合わせ、産業機械を組み立てる。	9/5-9/16	10	1	1
20	㈱エヌエステー	浜松市	電子機器製作における基本的なハンダ・圧着作業の体験を通して電子機器の構造や仕組みを理解し、簡単な試験業務を体験する。	8/22-8/26	5	1	1
21	アイパルス㈱	浜松市	産業用ロボットの電子部品表面実装機(マウンター)の製造実習です。部品の組立・調整を行う。	9/5-9/16	10	2	2
22	浜二ペイント㈱	浜松市	木工用塗料の検査及び塗装	9/5-9/9	5	1	1
23	天方産業㈱	浜松市	サーバ及びネットワークの設計、構築、運用のサポートを体験。ルネサス(R8C)マイコンを使用してプログラムを作成、動作確認。	8/22-9/2	10	2	2
24	㈱小楠金属工業所	浜松市	切削加工に関する実習	8/29-9/9	10	2	0
25	ASTI㈱	浜松市	技術開発部 車載電装品又は制御機器の評価、解析 / 生産技術部 生産ライン又は設備機器の改善	8/29-9/9	10	2	2

No.	会社名	実習地	テーマ	期間	日数	受入人数	実習人数
26	(株)浜松生花地方卸売市場	浜松市	花きの流通について学ぶ	9/5-9/16	10	2	0
27	(株)アイゼン	浜松市	機械加工を通して品質の重要性を知る	8/21-8/30	8	1	1
28	やまと興業(株)	浜松市	商品開発ミーティングに参加し、商品の受入から納入までの作業の流れを学ぶ。ものづくり作業としてパイプ加工全般を学ぶ。	9/5-9/16	8	2	2
29	シブヤ精機(株) 浜松本社	浜松市	製品からのCADによる設計作業(予定)	9/5-9/9	5	2	2
30	(株)かきこや	浜松市	食品の管理・販売。異なる年代の人たちと協力して働く。	9/5-9/16	10	2	1
31	ユニクラフトナグラ(株)	浜松市	ものづくり体験	-	-	-	0
32	(株)ティーケーワン	浜松市	地域資源を活用した観光情報発信事業	8/6-9/21	10	2	0
33	川崎工業(株)	菊川市	自動車部品製造に関わる機械技術の習得	9/5-9/16	10	2	0
34	(株)榛葉鉄工所	掛川市	安全教育。オートバイマフラーの作り始めから完成までを実習しながら学んでいただきます。	8/4-8/24	10	1	1
35	(株)キャタラー	掛川市	設備設計・工程設計、触媒等の研究開発、システム化など	8/22-8/26	5	1	0
36	(株)コバテック	袋井市	減速機部品のCAD設計、NC旋盤やホブ盤を用いた機械加工、減速機の組立作業、と一連の作業を実習。	9/10-9/21	10	1	1
37	(株)赤堀技研	袋井市	当社実習にて加工技術を学びながら 社会人としての体験をしていただきます	8/17-9/7	17	1	1
38	ニチアス(株)袋井工場	袋井市	社員の指導の下、製品の試作業等を行って頂きます。NC 旋盤・マシニングセンターなどを操作し部品を加工する。	9/5-9/10	5	1	1
39	静岡県サッカー協会グループ エコパハウス	袋井市	来園されるお客様に気持ちよく施設をつかっていただくよう、整備していきます。園内の除草作業や雑木の除去など。	8/8-9/21	10	3	3
40	化工機プラント環境エンジニア(株)袋井事業所	袋井市	流入水・処理水の水質分析。下水処理設備の点検・保守・メンテナンス。処理場全体の景観の維持・清掃・整備	8/8-8/12	5	1	1
41	(株)エービーアイコーポレーション袋井工場	袋井市	微生物の発酵生産実験及び発酵液から目的物の回収実験を通して発酵での物作りを体験する	8/17-8/26	8	2	2
42	袋井市月見の里 学遊館	袋井市	運営スタッフとしては、当日の準備作業、開催中のサポート、後片付けを通して、参加者との交流を深めて戴きます。	8/21-8/27	5	2	1
43	(株)アクティ森	森町	体験指導員の補助として、接客、案内、清掃、体験作品の梱包作業から販売迄、アクティ森の社員の一人として働く。	8/9-8/23	15	4	1
44	(株)ショーワ 浅羽工場	袋井市	・開発製品の性能解析、調査、検査 ・開発試作品の組立、検査	9/5-9/14	8	2	1
45	(有)村松研磨工業	袋井市	研磨作業は手作業で行うことが多く、研磨後の面粗度等のデータ取り	8/22-8/27	7	1	1
46	袋井市役所	袋井市	情報公開、社会教育、環境施策、農林畜産の振興、観光振興など、地方自治に関する業務の学習	8/15-9/15	10	5	5
47	ポーラ化成工業(株)袋井工場	袋井市	品質管理	8/22-8/26	5	1	1
48	NNP電子(株)	磐田市	当社開発の試作品について設計仕様に基づいた動作確認作業及び実験、データ取り又は製作補助	8/18-8/31	10	1	1
49	磐田信用金庫	磐田市	信用金庫の業務内容 預金・融資・為替業務の内容 営業店体験	8/9-8/11	3	3	0
50	(株)磐田グランドホテル	磐田市	接客、顧客満足度向上。ビアガーデン接客。	8/11-9/17	5	2	1
51	(株)大進堂	磐田市	印刷物作製の流れ、デザインワークの基本	9/5-9/14	10	1	0
52	(株)赤松電気	磐田市	工場内の電気設備工事により、現場の実情を自分で見る。	8/30-9/2	4	1	1
53	エズカ工業(株)	磐田市	一品者の機械や部品の製造に携わる	8/23-9/21	5	1	0
54	(株)クリアテック	磐田市	人事の仕事体験	8/22-9/2	10	2	0
55	(株)メルコ	磐田市	プラスチック。ダイカスト金型の、機械・工作機械による切削方法、仕上げ、組み付け、調整、製品完成までの体験。	9/5-9/14	7	1	1

No.	会社名	実習地	テーマ	期間	日数	受入人数	実習人数
56	浜松鉄工㈱	磐田市	二輪車・四輪車等の製造工程・製造方法を学ぶ。品質保証・測定具の使い方、機械加工・熱処理工程の理解。	8/20-8/28	8	2	2
57	ガステックサービス㈱ ホテルアークラッシュ豊橋	愛知県豊橋市	婚礼、宴会の会場設営、お客様への料理サービス	9/5-9/16	12	1	0
58	㈱アイ・エス・ジェイ	豊橋市	設備又は部品の機能理解とCADによる作図	9/3-9/14	10	1	0
59	豊川信用金庫	豊川市	本店での講義及び営業店職場実習	8/15-8/19	5	3	0
60	CDS㈱	岡崎市	テクニカルイラスト、3DCAD設計演習	-	-	2	0

実習人数が「0」となっている企業は、二次・三次募集で追加した企業のうち、実習申し込みがなかったもの期間・日数等が「-」となっているものは、詳細が未定だったもの

表2 実習学生の学年・学科別人数

学科	1年	2年	3年	4年	計
機械			17		17
電気電子			11		11
物質生命			21		21
コンピュータ			8		8
人間情報			3		3
計	0	0	60	0	60

表3 実習企業地域別内訳

市名	人数	市名	人数
浜松市	18	島田市	2
磐田市	6	吉田町	1
袋井市	18	静岡市	9
森町	1	富士市	3
掛川市	1	沼津市	1

表4 インターンシップ事前・事後研修会、報告会 出席者状況

学科	第1回	第2回	第3回	報告会	事後研修
機械	36	19	14	16	16
電気電子	37	19	10	10	10
物質生命	55	36	21	20	20
コンピュータ	11	6	6	7	7
人間情報	16	3	2	3	3
計	155	83	53	56	58

表5 インターンシップ実習テーマの分野別分類

<p>【機械設計・開発などの分野】 機械設計。CADによる作図。受注生産機の機構・開発設計。試作機の性能確認。自動車部品のモータ駆動化をにらんだ先行技術開発。図面検証→試作→評価。製品開発の補助作業。鍛造。金型の設計・製作現場を学ぶ。開発・設計現場において開発業務を体験。3次元CADを使ったパーツモデリング。エレベータ部品の設計。開発品の試作、製作、評価。健康関連機器の開発補助。</p> <p>【生産・機械加工・試作・もの作りなどの分野】 機械加工実習。クラッチディスク摩擦材の抄造作業。自動車・オートバイ・農業機械の精密部品を切削加工。マシニングセンタによる製作。ワイヤ放電加工。オートバイマフラの製造工程。塑性加工(鍛造、熱処理作業工程)。非鉄金属の各種加工。NC加工汎用機の体験。金型設計→加工→仕上→射出成形の体験。パイプ曲げ、ロウ付け、溶接、出荷等。NC旋盤、マシニングセンタ、ホブ盤。細穴放電加工。洗濯機の部品製造から組立作業まで。</p> <p>【検査・測定・実験などの分野】 完成品検査。画像処理装置。加工条件設定のための測定分析。試作機の性能確認。2輪車用ショックアブソーバのテスト。エレベータ関連部品の品質調査。ショックアブソーバの試作組立、ベンチテスト。自動車部品の性能試験。品質管理及び</p>	<p>試験活動のサポート。フッ素樹脂製チューブ・ウレタン製チューブの押し出し条件確立。位置決めXYテーブルの評価実験。自動車部品の振動特性測定。CAEによる振動解析。金属疲労分析。プレス製品の性能評価。実験データの測定と理論解との比較。</p> <p>【電気・電子関係の開発・実験などの分野】 工場内各種機器の電力集計及び分析。工場内照明器具、空調機器、動力機器の使用電力集計及び分析。電子制御機器の試作品実験データ収集。超音波応用機器の開発設計。AutoCADによる電気回路の設計。高速精密送り装置のモータ及びドライバの特性解析。微細認識工学系における照明の解析。電磁部品の評価検査。各種回路の計測制御。レーザー干渉計を使用した変位測定。太陽光発電システムの取付実習。</p> <p>【物質科学関係の開発・実験などの分野】 微生物応用による開発試験。汚水浄化システムの理解。水処理施設フローの習得と運転管理。電子顕微鏡取扱業務。環境計量における、試料の前処理。有機合成による香料分質の合成・精製。化粧品品質管理。FeNi合金の磁気特性調査。し尿の各処理工程のシステム管理と作業実習。銅合金の透過電顕による組織観察。緑茶カテキンの分析・整理。水質分析。</p>
---	--

【情報関係などの分野】

図書館業務全般. エレベータ電気手配自動化ソフト作成. 物流業務と情報システムの現場実習. パソコンデータ入力. ITシステム管理, ユーザサポート等. PC 機器類の研究指導. インターネットを使った情報収集. ワード・エクセルなどの応用. 市内の観光スポットの写真撮影や資料収集・ホームページの作成. 3次元CADソフトと遠隔ネットワークシステムの習得. データ収集プログラムの作成. データベースソフトの作成.

Linux のリアルタイム制御. 発信用ソフトのデモ用サンプル制作.

【企業経営・管理などの分野】

接客サービス. 本社として各支店との事務連絡業務. 接客販売. 放送・番組制作における技術部門の仕事. 現場見学, 実習(配管, リフォーム, 不動産). PR・広報等. 社会人になるための基礎教育の体験. ベンチャー企業の経営現場. 作業工程管理. 新製品のマーケティング.

【福祉活動・団体活動などの分野】

消火・救急訓練, 消防機材点検等, 施設内外の整備(窓拭き, 草刈り, 押入れ掃除等), 重度障害児(者)の介助, 散歩・制作活動等の介助. 市民参加の地域福祉活動.

5. 事前教育について

前述したように, 4月27日から3回にわたり事前研修会を開催し, インターンシップを受けるにあたり, 基礎的必要事項や心構えなどを説明した. 第1回事前研修ではインターンシップの概要とインターンシップに参加する上での考え方や心構え, 履修等について説明を行った. 第2回事前研修では, アルバイトタイムス社の協力を得て, 実習にあたってのマナーや挨拶, 電話のかけ方等について講習を行った. 第3回目は昨年度の実習生である3名の4年生にインターンシップでどのようなことが体験できたのか, また参加する上での考え方や心構えについて話してもらった. 続いて本学キャリア支援課から, 業界や企業についての基礎知識について説明を行った.

例年は4回目の事前研修として「意欲と積極性を高める」をテーマに, 実習直前に注意事項の説明を行ってきた. しかしながら, 昨年のインターンシップWG会議で, 事前研修が多すぎるため1回減らすことが検討されていたこと, および上記内容はキャリア支援講座等で十分指導されていることから, 今年度は4回目の事前研修を省略し, 全3回の事前研修とした. 事前研修を1回減らしたことに

ては, 特に不都合は生じなかった.

このように, 3回にわたる事前研修によって明確な目的意識を持った学生を実習先に送ることができたと考えている. 事前研修への参加者数を表4に示した.

また, 本年度も各事前研修をビデオに収録し, これを本学図書館のDVDライブラリーに登録した. これにより, 事前研修当日に実験・実習やその他の理由によって参加できなかった学生も, 後日DVDを見て内容に関するレポートを提出することにより, 事前研修を受けたと認定するよう配慮した.

第1回の事前研修参加者155名の内60名が企業実習を行うこととなった. この人数から実習参加率は38.7%となり, 昨年の35.0%よりも参加率が上がった.

6. 受入企業数と参加学生数の推移

インターンシップの実習を行うにあたって, まず本学と実習生受入企業との間で“覚え書き”を作成した. つまり, 双方の義務や責任を明らかにし, 万一の場合に備えるため実習生の受入に関して大学および企業の双方が遵守すべき事項を確認するため, その上で双方が署名捺印した.

また, 学生は実習に先立って, 参加申込書の提出にともなって助言教員の承認をうけることになっている. これは本学教員への連絡だけでなく, 学生が自分から参加の意思を示すことで, キャリア教育への参加の機会を増やすためでもある.

インターンシップ実習は, 1件を除き8月8日から9月22日までの本学の夏期休業期間中に各企業において行われ, 滞り無く終了することができた. 各事業所における実習期間中には, インターンシップに対する協力の御礼と学生の実習状況の視察を目的として, 受け入れ企業に担当教員が出向き, 実習の受入担当者と面談を行った.

ここ3年間に各受入企業等において実施されたインターンシップの実習テーマについて分野別に分類したものを表5に示した. 本学でインターンシップを実施した10年間の受入企業数, 実際の実習を実施した企業の数, 募集学生数, 参加学生数, 単位取得学生数の変化を図1に示した. 当初は受入事業所数および募集実習生数は年々増加する傾向にあったが, 近年は企業を取り巻く不況の影響により, 実習生受入れ事業所数および受け入れ人数はほぼ横ばいの状態である. 10年間の参加学生の累計は700名以上となった.

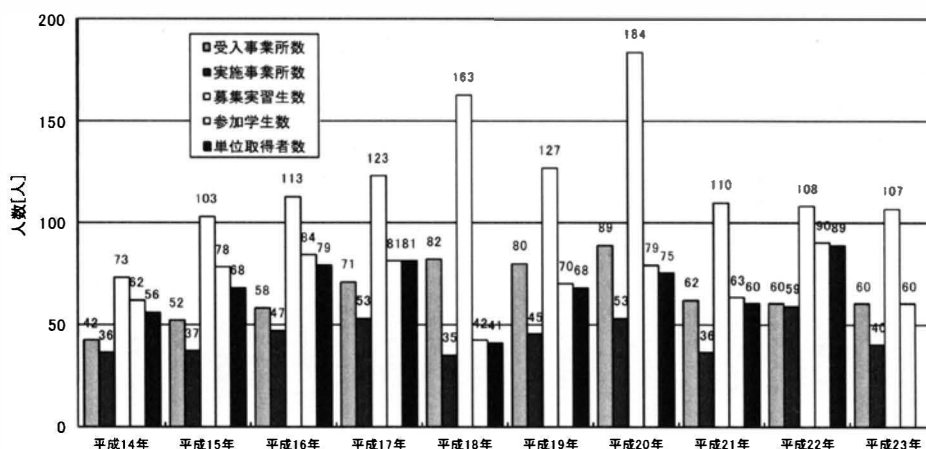


図1 受入企業等の数および参加学生数(10年間の変化)

参加学生の学科別内訳を図2に示した。本年の傾向は、全体に参加人数が減少した中で、物質生命科学科の人数がわずかながら増加したことである。なお、実習先の業種が偏っており、希望する分野を活かせる実習を体験したかったという意見は本年度も多く、継続して解決すべき課題となっている。

7. インターンシップで学生は何を得たか？

以下では、学生の実習報告に基づいて、実習によって得られた成果、実習を行った感想、実習に関する反省などについてまとめた結果を報告する。

7.1 実習内容

学生が実際に行った業務内容の詳細を事項別にまとめ、よく行われていた主要な業務内容を図3に示した。1位の「製作、組立、加工」が16%、同率2位の「実験、測定、試験、分析」と「営業、接客、販売」は10.2%であった。昨年度は、1位「製作、組立、加工」、2位「生産ライン業務全般」、3位「実験、測定、試験、分析」の順であった。昨年と比較して特筆すべきこととしては「営業、接客、販売」が順位と比率をあげ、昨年上位であった「生産ライン業務全般」は順位を下げた。この結果は、製造業に対する景気悪化の影響を示唆するものかもしれない。

7.2 実習によって得られた成果

「実習の成果」についてまとめたものが図4である。1位の「企業や職場の雰囲気がわかった」は10.2%、2位の「慎重かつ正確な作業の重要性」は9.1%、3位の「人との付き合い方、会話の重要性」は8.0%であった。昨年度は「慎重かつ正確な作業の重要性」、「仕事仲間との協調性の重要性」が上位を占めていたことから傾向は良く似ており、慎重かつ正確な作業、コミュニケーション力の不足を再確認できているのではないと思われる。

7.3 実習に関する感想

「実習に関する感想」をまとめたものが図5である。実習内容に関する感想としては、「貴重な体験ができ、非常に勉強になった」との感想が大きく増加した。研修の実があがったと考えられる。以下、2位「実習期間は充実して短く感じた」、同率3位の「問題点の解決が面白かった」、「実習担当者の助言がためになった」、「社会人の責任

の重さを実感した」、「製品を作ることの大変さを実感した」が例年同様に高い比率であった。

これらの結果から、インターンシップはアルバイトとは異なる現場の大きな刺激を得る貴重な機会として、重要であることが伺える。昨年に比べて参加人数が減少する中、就業力育成の観点からは、多くの学生に参加させる方策が必要なのかもしれない。

7.4 実習に関する反省

実習に関する反省として記載された事項を整理したものが図6である。その中で「もっと質問をするべきだった」が昨年同様に最多の回答となった。その他は「基礎的、応用的な知識が足りなかった」、「うまく話や説明ができなかった」、「なにごとにも積極的に行動するべきだった」など、昨年同様である。学生のコミュニケーション力の不足が表れた典型的な結果である。キャリア支援活動の中に就業場面でコミュニケーション力の向上を目的としたプログラムを積極的に取り入れる必要があると言える。

8. インターンシップ実習の評価（受入企業、訪問教員）

インターンシップの終了後に、実施状況をできるだけ詳しく調査して問題点を把握するために、受入企業、参加学生および訪問教員を対象としたアンケート調査を実施した。その結果について以下に述べる。

8.1 受入企業による実習生の評価

単位認定のため、学生の実習状況の評価を行う必要がある。そのため企業の実習担当者に依頼して、個々の実習生の実習状況に関する評価を求めた。評価は10項目の評価事項について各々5段階で評価するものとした。その結果(回答数59)を表6に示した。昨年度に比べて、「積極性」の平均値が0.5上がったことが目立ち、「責任感」が0.2、「正確」が0.1上昇した。一方、「創意工夫」と「協調性」が0.1下がった。「勤務状況」、「勤務態度」、「内容理解」に関しては昨年度と同じ値であった。「全体評価」は0.1上昇した。「劣る1」の評価はほとんど無かったが、「協調性」に関して1名「劣る1」と評価された学生がいた。「積極性」に関しては昨年度が一昨年度よりも0.4と大幅に下がっていたので、例年の値に戻ったと考えられる。昨年度に「積極性」の項目が下がったのは一過性の現象であろう。

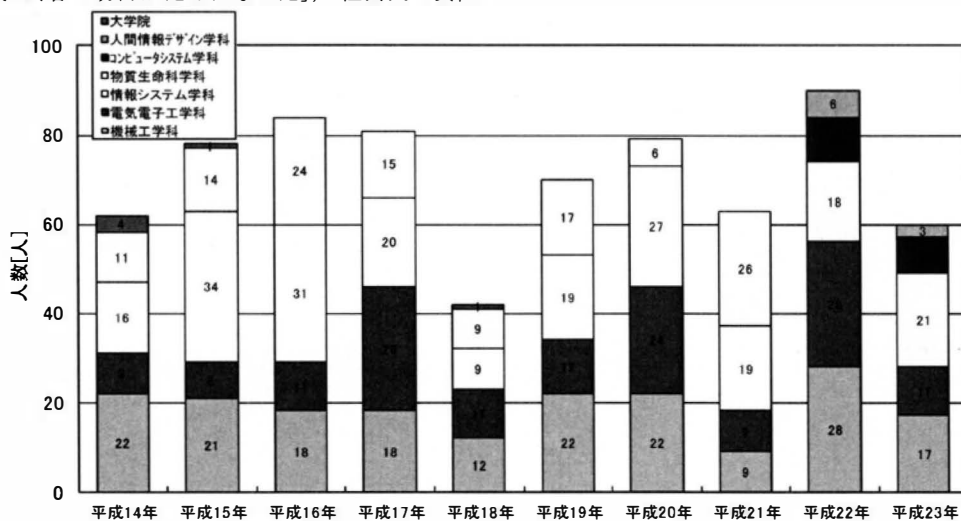


図2 参加学生数の学科別内訳 (10年間の変化)

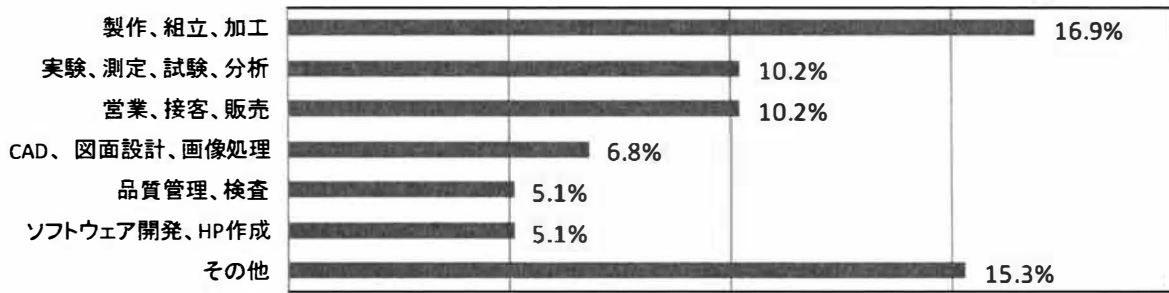


図3 実習内容の詳細

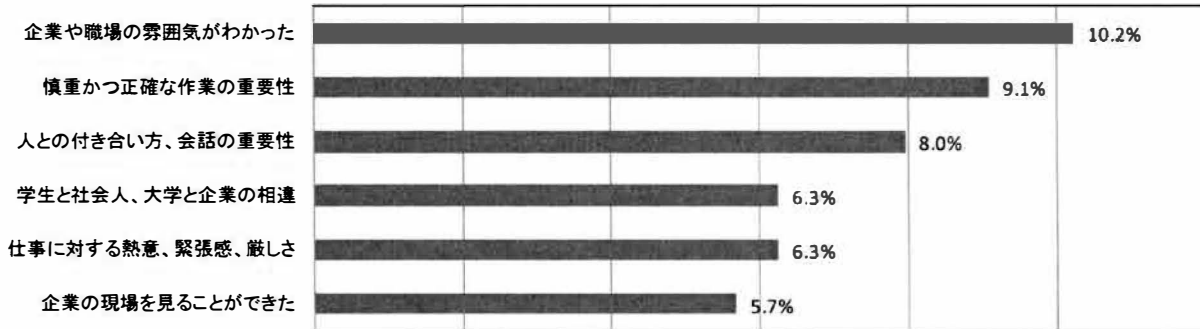


図4 実習によって得られた成果

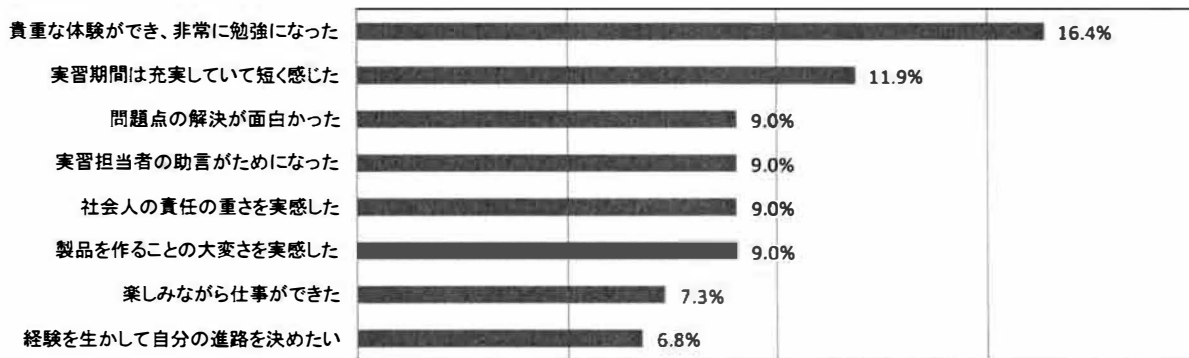


図5 実習に関する感想



図6 実習に関する反省

表6 インターンシップ実習生に対する個人別評価 (5段階評価, 回答数59)

評価項目	評点					平均値
	大変良い	やや良い	普通	やや劣る	劣る	
	5	4	3	2	1	
勤務状況(欠勤、遅刻、早退などの状況)はいかがでしたか?	43 72.9%	7 11.9%	7 11.9%	2 3.4%	0 0.0%	4.5
勤務態度(言葉遣い、挨拶、返事など)はいかがでしたか?	25 42.4%	19 32.2%	11 18.6%	4 6.8%	0 0.0%	4.1
実習内容はよく理解しましたか?	17 28.8%	27 45.8%	14 23.7%	1 1.7%	0 0.0%	4.0
仕事において、よく実行し、行動し、努力しましたか?	20 33.9%	27 45.8%	10 16.9%	2 3.4%	0 0.0%	4.1
仕事は正確で良い結果が出ましたか?	19 32.8%	29 50.0%	4 6.9%	6 10.3%	0 0.0%	4.1
創意工夫の姿勢は見られましたか?	7 11.9%	22 37.3%	25 42.4%	5 8.5%	0 0.0%	3.5
仕事に対する積極性はいかがでしたか?	23 39.0%	20 33.9%	13 22.0%	3 5.1%	0 0.0%	4.1
責任感を持っていましたか?	24 40.7%	24 40.7%	9 15.3%	2 3.4%	0 0.0%	4.2
協調性はいかがでしたか?	21 35.6%	17 28.8%	19 32.2%	1 1.7%	1 1.7%	3.9
全体評価	20 33.9%	26 44.1%	10 16.9%	3 5.1%	0 0.0%	4.1

ほぼ全ての項目に関して例年と同様の値であったことから、本学学生の特徴がこのアンケート結果から読み取ることができる。問題点は「創意工夫」の値が3.5であり、他の項目に比べて低いことである。この項目の評価点を上げるためには、入学当初から対策していくことが必要で、インターンシップの事前研修で強調する程度では不十分であろう。「創意工夫」の欠如を本学学生への欠点として全教職員に周知徹底し、普段の実験実習やクラブ・サークル活動等で、観察し考えて行動する応用力を養うように指導していく必要があると考えられる。

表7には個人別の所見として述べられた主要なものを示した。おおむね「積極的な行動」、「明るさ」、「真面目」、「元気」が評価され、一方で「積極性の不足」、「元気がない」、「コミュニケーション能力不足」、「遅刻」などが問題点として指摘された。また本年度の新たな意見として、「メモをこまめにとっていた」ことが評価され、逆に「ノートを取る姿がなかった」ことが問題点として指摘されていた。この点は事前研修で強調する必要がある。また本年度初めてインターンシップを受け入れた1社から、企業側の受け入れ体制の不備が反省点として述べられていた。初めての企業に関しては、インターンシップの意義等の事前説明をより強調して行う必要があるかもしれない。

8.2 受入企業によるインターンシップの評価

受入企業担当者によるインターンシップに関する評価結果を図7に示した。いずれの項目も、約90%の回答が適切あるいはほぼ適切という結果となった。「実習生の実習内容は満足すべきものであったか」、「インターンシップ全般に関して」に関しては、適切と回答した割合が大幅に増え、やや不適切と不適切の回答は昨年度とほぼ同じであっ

たことから、改善されたと考えられる。これに対して「実習生の態度や状況について」は適切が大幅に減少し、ほぼ適切が大幅に増加し、やや不適切も増加していた。企業側の実習生の態度に対する評価が大きく低下している。しかしながら前述のように、実習生に対する個人別評価は昨年に比べてほとんど変化していない。おそらく、本学実習生に対する評価が低い、「創意工夫」等を重視する企業側担当者が多かったのではないかと考えられる。

8.3 学生によるインターンシップの評価

学生達自身によるインターンシップに対する評価結果を図8に示した。指導や指導内容への満足度の高さが認められる。卒業を1年以上後に控え、現場で就業体験できる貴重な機会に的確な指導を受け、自らの学ぶべきあるいは工夫すべきポイントを痛感し、その後の勉学・生活にフィードバックできるのは他には得難い貴重な経験となっていることが見て取れる。是非この制度を継続改良発展してゆくことが望まれる。

8.4 実習先訪問担当教員の報告

単位認定のために、インターンシップ先での本学学生の実習状況を調査して評価をする必要がある。このために本年度も各企業に担当教員が訪問し、各企業の受け入れ担当者および実習生本人とも面談して聞き取り調査を行った。その実習先訪問担当教員の訪問報告をもとに、学生の実習に臨む様子をグラフにまとめたのが図9である。また実習生の意欲をグラフにまとめたのが図10である。昨年同様、学生がまじめに、また意欲的に実習に取り組んでいた様子が読み取れるグラフとなっている。

表7 インターンシップ実習生に対する個人別評価の所見

<積極的な行動が評価された>

- ・いつも元気で作業が出来ました。他のインターンシップ生のムードメーカーとして楽しく作業が出来ていたと思います。
- ・実習内容として与えた課題に真剣に取り組む姿勢は良かったと思いました。
- ・業務の理解も良く、適切な作業が出来ていた。会話をしているも落ち着きがあり安心感を持った。
- ・しっかりした文章も書いていました。
- ・受け答えもしっかりしていました。
- ・こまめにメモをとり、知識を吸収しようという姿勢が感じられました。
- ・積極的に実習に取り組んでくれました。
- ・真面目に仕事に取り組む姿勢が感じられました。
- ・もっといろんな事を学びたいとか、学校の授業に対しても、実習や機械に関係するサークルを増やして欲しい等々積極性が伺える。
- ・インターンシップ実施の目標を持ち、真面目に一生懸命取り組んでおり、好感が持てた。
- ・挨拶や時間を守ること、という基本的なことがしっかり出来ていました。
- ・温和で協調性にとみ、素直で物怖じせずに仕事に取り組んでくれました。
- ・接客のアルバイトもしているということで、お客さんへの対応もスムーズでした。初対面も好印象でした。
- ・最終日に総括として実習した事にかんするプレゼンをしていただいたのですが、弊社参列者全員がスタンディングオベーションで賞賛しました。実習内容の締め方・発表の仕方全てに置いて満点でした。
- ・職場に溶け込む姿勢は良くどの職場でも素早く対応できる能力を持っていると思われます。
- ・あいさつが良く好印象を受けました。
- ・実習を重ねるごとに、信頼が増し、安心して仕事を任せられることができるようになった。また、与えた仕事について自ら、時間調整をし、合間の時間で処理をすることができた。協調性があり、職場に溶け込むことも出来ていた。

<問題点の指摘があった>

- ・始業開始10分前の出勤を指示しましたが、間に合わない日何日かありました。
- ・もう少し積極的に職員や他の学生とコミュニケーションできると良かったと思います。
- ・質問があまりなくノートを取る姿を見ることが出来なかったことは残念です。
- ・もう少し元気よく取り組んでくれれば、なお良かったように感じます。
- ・行動を起こす前に周りを一度見るによりコミュニケーションが取れると思います。元気・覇気があれば人に与える印象がさらによくなる。
- ・協調性に少し欠けると感じます。
- ・遅刻があったので気をつけましょう。
- ・各部署では説明を受ける時間が多く、創意工夫の姿勢を見せるのは難しかったかもしれません。ただ比較的受身の学生さんでしたので、もっと自己アピールする力をつけると社会に出てから、より伸びると思いました。
- ・元気が少し足りないような印象を受けました。
- ・仕事というものに対して、もう少し積極的に質問を投げかける等があってもよかったですかと思えます。
- ・もう少し元気よく取り組む姿勢があるとよいと思います。
- ・今年、初めて受け入れをさせていただき、正直、弊社での受け入れ態勢がなくなって、学生さん（二人とも）をお客様として受け入れてしまい、いわゆる、インターンシップとしての意味を成さなかったと、反省しております。
- ・もう少し覇気があればとは思いました。
- ・声小さい もう少し存在感をアピールできるとよい。
- ・もう少し笑顔が出れば満点です。
- ・実習に臨む姿勢は、非常に良いものを持っています。欲を言うならば「自分から考えて行動する」という点でしょうか。

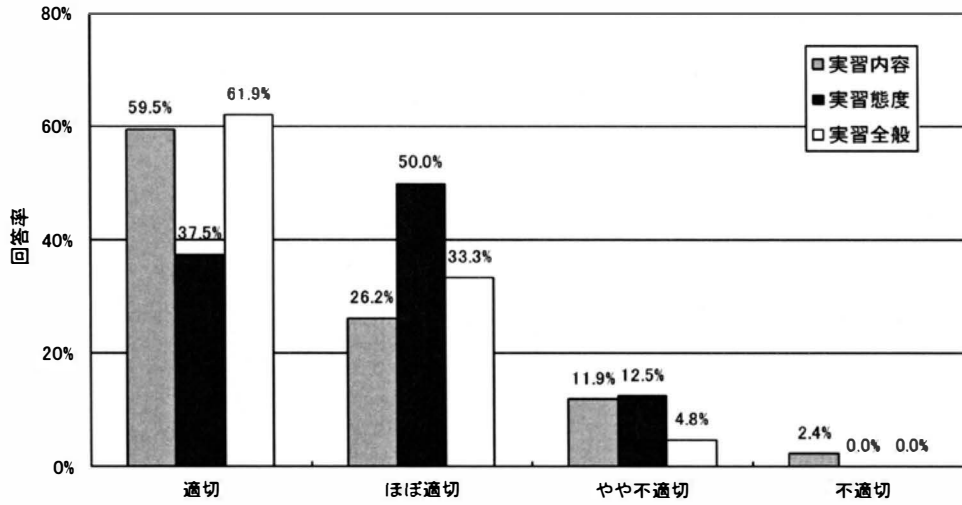


図7 受入企業担当者によるインターンシップへの評価

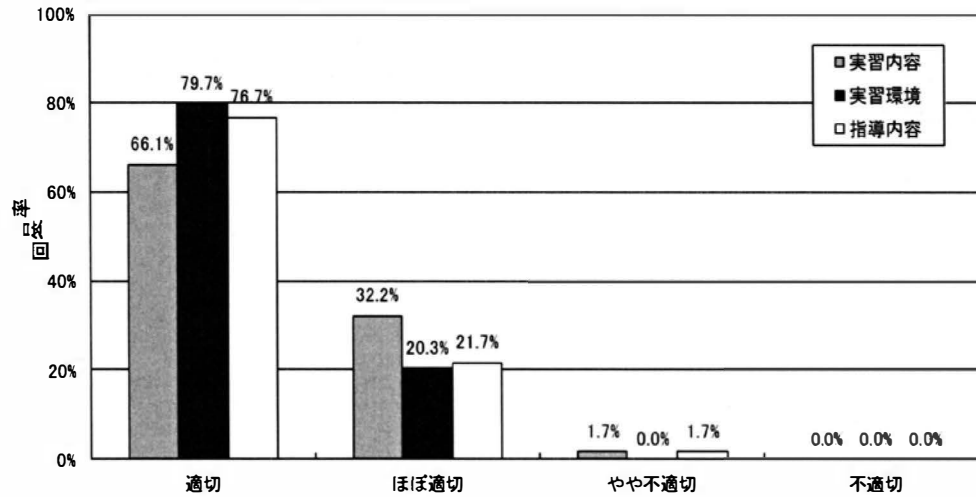
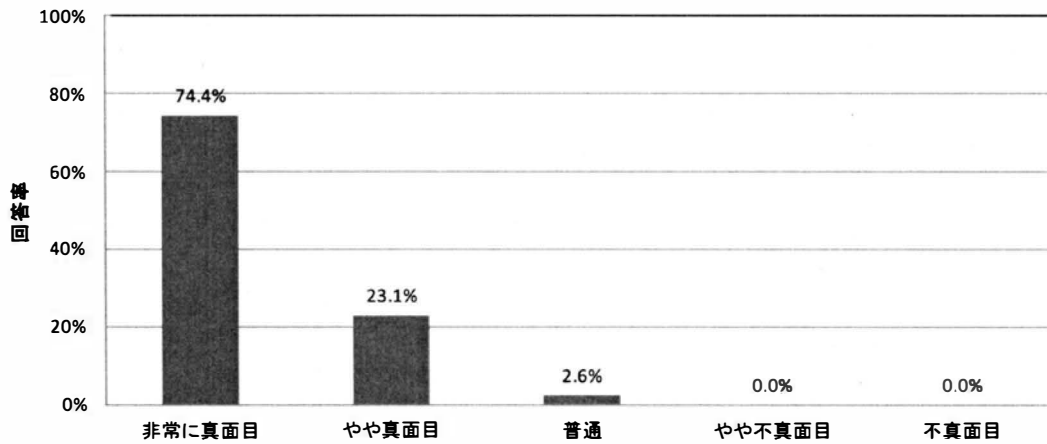


図8 参加学生による実習内容、環境、指導内容への満足度



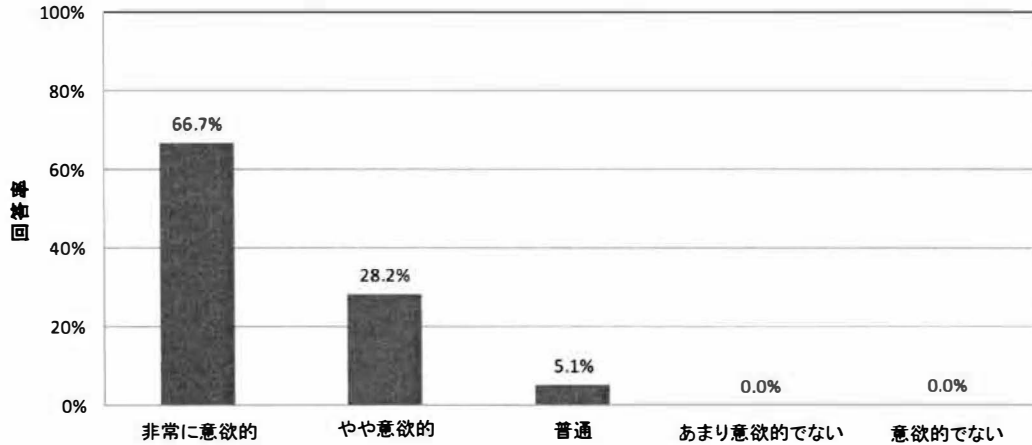


図 10 実習生の意欲に対する訪問教員の評価

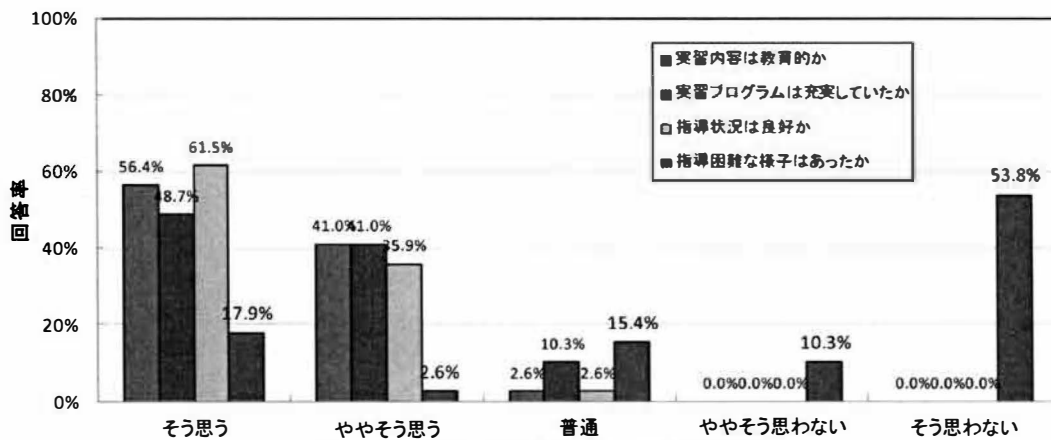


図 11 訪問教員の受入事業所への評価と要望

一方、訪問教員による企業の実習内容が教育的であったか、実習プログラムは充実していたか、指導状況は良好かという事項に対する評価は、3つの質問項目とも5段階評価で5または4の好意的評価が90%以上であった。また実習学生に対して指導困難な様子がうかがえたかという質問に対しては、「そう思う」、「ややそう思う」が合わせて20%を超えていて、指導困難な状況が無視できない割合で起こっていたことをうかがわせる。これらの結果を図11に示す。

自由記述欄の内容では、次のような肯定的な意見が見られた。

- ・よく計画されたプログラムに基づいて行われていた
- ・とってもいい実践経験
- ・指導員が付ききりで実習に対応していただいた。
- ・授業では経験できない、現場ならではの空気に触れることができた
- ・学生の学科に見合った課題を与えていただいた
- ・自動化の必要性を痛感するきっかけ、作業者の気持ちや不良の発生を考える契機
- ・社会生活における考え方を中心としたきわめて教育的な内容

また、同じ企業にインターンに来ている他大学の学生との交流が有益であったという見解もいくつか見られた。しかしその一方で最終日に実習の講評のようなものがなかったのが残念であったと言うような意見もあった。それから企業からの意見として、他大学からのインターン生と比

較されて本学学生に対する厳しい評価をされたという報告もあった。

基本的には、学生に対しても受け入れ企業に対しても訪問教員の評価は良好であったが、指導困難な状況が見られたり、本学学生の身なりや態度に残念な点があった例も見られたことなど考えなければならないこともあった。また他大学学生とインターンシップ先で一緒になると言うことは、学生本人にとって、企業を見るということ以外にも本学以外の世界を実感するいい機会であるとともに、企業の側から本学と他大学の比較をわずかの例でされてしまうと言う厳しい面もあるので、インターンに向かう学生に対し万遍ない志気向上が求められる。

9. 平成23年度インターンシップのまとめ

本年度のインターンシップの取り組みを振り返り、以下のようにまとめる。

9.1 事前研修について

昨年度までは事前研修を4回行っていたが、昨年度のインターンシップWGにおいて、事前研修が多すぎるため1回減らすことが検討された。また、本年度からキャリア支援講座が開講され、これまで該当回の前研修で行っていた内容についてはキャリア支援講座で十分指導されていることもあり、本年度は事前研修を3回とした。企業アンケートおよび学生アンケート、訪問教員のアンケート結果からも事前研修を減らしたことによる不都合は特に認め

られない事から、事前研修は3回で十分であったと言える。来年度以降も事前研修は今年度同様、3回の実施で十分であるものと考ええる。

また、本年度初の試みとして、第2回事前研修においてアルバイトタイムス社の協力を得て、「実習にあたってのマナーや挨拶の仕方、電話のかけ方等」についての講習を行った。講習では、挨拶や電話のかけ方等のシミュレーションを行い、学生にとって非常に役立ったと思われる。企業アンケートにおいて、ビジネスマナーの不足が指摘されている点もあり、来年度以降も是非続けていくことができればと考える。

9.2 実習受け入れ企業数について

景気低迷や円高の影響、本年3月に発生した東日本大震災等の影響があったにもかかわらず、今年度の受け入れ企業数、実習テーマ数に関してはここ数年とほぼ同数となった。これは大学のインターンシップ制度への地元企業の理解が広まってきた事と、キャリア支援課および教員の新規企業開拓の成果とも言える。

特に電気電子工学科では、受け入れの可能性がありそうな近隣企業、以前インターンシップの受け入れがあったが近年受け入れがない企業の中から、卒業生が就職している企業をリストアップし、卒業研究担当教員が個別に卒業生と連絡を取り、インターンシップ受け入れの可能性および担当者の連絡先を調査した。また、教員が個人的に付き合いのある企業についても受け入れの可能性を調査・リストアップし、新規企業の開拓を行った。

今後何らかの対策を取らない限り、インターンシップ受け入れ企業の急増は望めないこと、およびインターンシップ受講生の増加が予測されることから、来年度以降についても従来の受け入れ企業との関係を深めると共に、新規企業の開拓は必須であると考えられる。

9.3 インターンシップ実習の評価

受け入れ企業による実習生の評価結果では、「積極性」、「明るさ」、「真面目」、「元気」が評価された。その一方で、「積極性の不足」、「元気がない」、「コミュニケーション不足」などが指摘されている。これらは、学生個人による差が大きいことを表している。また、「遅刻」を指摘された学生もおり、学生気分のまま実習に望んでいる学生もいることが伺える。実習生の態度や状況について、企業からの評価が低下傾向にあり、来年度以降、事前研修を通して基本的なビジネスマナーを身につけさせる必要があると思われる。

9.4 春期インターンシップについて

春期インターンシップ開催の可能性について、今年度は企業へのアンケート調査を行った。調査結果はまだまとまっていないが、来年度はこの調査結果を基に、春期インターンシップ開催の可否について検討する必要がある。また、開催の可能性がある場合には、試行の実施が望まれる。

10. 謝辞

本年度のインターンシップ・プログラムを実施するにあたり、ご協力をいただいた企業および担当者の皆さま、報告会で発表をご担当いただいた皆さんに心から感謝致します。

参考文献

- 1) 文部省編, インターンシップ・ガイドブック, インターンシップの円滑な導入と運用のために, 1998.
- 2) 丹羽昌平 他, インターンシップで学生は何を得たか?—平成14年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第11巻, 2003, 281-303.
- 3) 丹羽昌平 他, インターンシップ実施5年間のまとめとこれからの展望—平成15年度インターンシップ実施報告—, 静岡理工科大学紀要, 第12巻, 2004, 299-320.
- 4) 丹羽昌平 他, 平成16年度インターンシップ実施報告—インターンシップの教育効果の向上のために—, 静岡理工科大学紀要, 第13巻, 2005, 95-104.
- 5) 丹羽昌平 他, 地域社会との連携による実習体験教育, 工学教育, 第53巻第4号, 2005, 23-29.
- 6) 惣田晃夫 他, 平成17年度インターンシップ実施報告—事前教育の充実による教育効果の向上—, 静岡理工科大学紀要, 第14巻, 2006, 163-174.
- 7) 富田寿人 他, 平成18年度インターンシップ実施報告—キャリア教育メイン・プログラムを目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第15巻, 2007, 127-139.
- 8) 富田寿人 他, 平成19年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第16巻, 2008, 117-129.
- 9) 富田寿人 他, 平成20年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第17巻, 2009, 163-174.
- 10) 山本司志朗 他, 平成21年度インターンシップ実施報告—参加学生の増加を目指して—, 静岡理工科大学紀要, 第18巻, 2010, 145-155.